

CHALLENGER!



秋田市 鈴木 のぞみ (すずきのぞみ) さん

介護・福祉・まちづくり支援の講師、相談業

これまで23年にわたり福祉の現場に携わってきた鈴木のは、2023年に「合同会社 秋田まちとケア協働舎」を立ち上げました。

実は、高校卒業後に入学した短大では音楽を専攻していたという彼女が、なぜ福祉の道へ進むことを選んだのか。その背景には、人生の支えとなったご主人や、愛亀「いんく」との温かな日々、そして人とのつながりを何より大切にする信念がある。さらに、近年は地域の課題に正面から向き合い、誰もが安心して生きられる場所をつくろうと奔走している。

事業に加え積極的なボランティアにも取り組み、秋田のまちと人を元気にしたいと願う彼女の情熱に迫る。

音楽漬けの学生を変えた、介護現場での痛烈な評価と出会い

短大生時代に音楽を専攻し、日々練習に明け暮れていた鈴木さん。授業の一環として訪れた介護施設で、思いがけない一言を受ける。「あなたはお客様のようで、戦力になりませんでした」と職員に言われたのだ。心に刺さる言葉だったが、同時になぜ自分は役に立てなかったのだろうという強い疑問が生まれた。その悔しさが、福祉の世界への扉を開きかけとなった。

実際に現場に入ると、利用者の表情や反応がその場で返ってきて、人と人が向き合う仕事ならではの手応えを感じたという。

声をかければ笑顔が返り、不安な気持ちを受け止めれば安心した表情が浮かぶ。そんな瞬間に触れ、福祉とはこんなに面白い仕事なのかと自然と思うようになった。

多くの高齢者や障がいのある方と関わる中で、人生観に触れる機会も増え、その言葉の一つひとつが視野を広げてくれたという。人と深く向き合うことで、自分が誰かの支えになれていると感じられ、福祉は生きている実感を与えてくれる大切な仕事になっていった。

喜びを秋田のチカラに おもしろいけど。つながる

自分でやるしかないと覚悟し 踏み出した、福祉起業への道

働く中で、さらなる改善の可能性に気づく場面が増えたが、会社の枠組みでは踏み込めない支援も多かった。市役所などで協力的な人々に出会う一方、ボランティアでは限界があり、会社に雇われながらでは迷惑がかかることもあると感じるようになった。

ヘルパー事業所を運営し、車いすの障がい当事者でもあったご主人が、他社が行わない支援にも柔軟に向き合う姿を見て育まれた価値観も大きかった。突然の病でご主人を亡くし、失意の中で迎えた日々を、亀の「いんく」がそっと支えた。

やりたいことを紙に書き出したとき、残された道は起業しかないと感じたという。2023年9月に決意し、12月には会社を設立。今は思い描いていた仕事に全力で取り組んでいる。



オフィスにはたくさんのお亀。愛亀「いんく」が作ったつながりも

事業詳細

ケアマネジャーとして介護福祉に携わる一方、まちづくり支援も行う。講師業、相談業、デザイン、まちづくりコーディネーター等、多方面で活動。官民協働・地域連携をしながら交流人口を増やし、地域課題の解決を目指す。その他、市民活動団体「おもしろいけど・かだればあ」代表も務める。秋田で楽しく暮らすをモットーに、イベントやボランティアを企画。

会社名 合同会社 秋田まちとケア協働舎 営業時間 平日8:30-17:30 住所 秋田県秋田市中通一丁目3番5号 秋田キャッスルホテル3階 ホテルオフィス309
連絡先 TEL: 090-3984-1415 / 070-3160-4775 FAX: 050-3535-9814 Mail: noz-912@kyf.biglobe.ne.jp



鈴木さんからひとこと

ボランティアを手伝ってくれる仲間になってほしい。

隣の人を気にかける関係を地域でつくりたい。お互いをできる範囲で助け合うつながりは、自身のためにもなる。



ちょっとしたお手伝いで、気軽にできるボランティアを

困ったとき、思い浮かぶ誰かがいる。秋田で紡ぐ優しさの未来

「困ったときにSOSを出せる関係がある地域にしたい」と鈴木さんは話す。秋田の人は自分より他人を優先する遠慮深さがあるが、だからこそお互いが無理なく助け合う仕組みが必要だという。支援やつながりの大切さは言葉にすると簡単だが、実際に行動に移すのは難しい。だからこそ、誰かが思いやりを持って、手を差し伸べられる地域づくりが重要だ。

鈴木さんは、福祉だけでなく市民活動団体「おもしろいけど・かだればあ」の運営やボランティアのマッチング「おたすけっと」、高齢者向け情報検索サイト「いんくる」の運用などを通じ、世代を越えて支え合う温かな秋田を目指し続けている。地域に根づく小さな助け合いを積み重ね、人と人が自然につながっていく未来を描いている。